

## 第 3 委員会報告資料

福岡市 M I C E 関連施設整備方針（骨子案）について

平成 26 年 9 月  
経済観光文化局

# 『福岡市MICE関連施設整備方針(骨子案)』について

## 目的

福岡市では、MICE機能の強化を図るため、コンベンションゾーンにおいて、第2期展示場等の整備やホテル・賑わい施設等の民間施設の誘致に向けて取り組んでいる。

今後、MICE機能強化を図っていくためには、施設整備・運営への民間ノウハウの活用や、道路等の交通基盤整備が不可欠であり、整備主体や運営主体が異なるこれらの施設について、官民が取り組みの方向性やそれぞれの役割を共有し進めていくため、施設概要や整備の考え方など、現時点での市としての基本的な考え方を示すもの。

## 策定までの流れ

「整備方針」の策定にあたっては、民間の考え方なども踏まえながら進めるため、骨子案を基に、民間に対するヒアリング等を行い、12月を目途に最終案として取りまとめていく。

9月議会 「福岡市MICE関連施設整備方針(骨子案)」の報告

- 民間事業者へのヒアリング
- コンベンション施設利用者へのヒアリング

※検討の深度化

12月議会 「福岡市MICE関連施設整備方針(案)」の報告



# 福岡市MICE関連施設整備方針(骨子案)

## 1. MICEについて

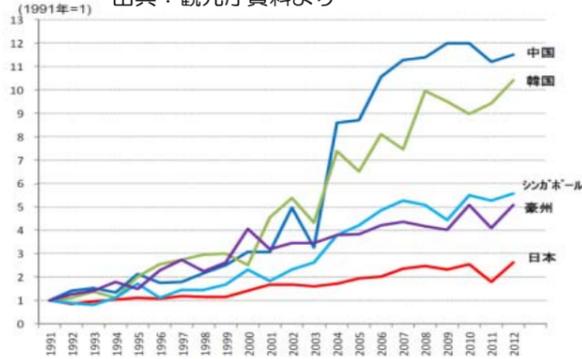
### 1) MICE (マイス) とは

- 企業等の会議 (Meeting), 企業等が行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel), 国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention), 展示会・見本市, イベント (Exhibition/Event) の頭文字を合わせた造語で, 多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。
- ビジネス・イノベーションの機会の創造, 地域への経済効果, 国・都市の競争力向上といった様々な意義を有する。

### 2) MICEの動向

- 主要国では, MICEは重要な産業 (GDPの約1~2%) であり, アジア各国は, 経済成長を背景にMICE分野へ力を入れ, アジア全体としてもMICEビジネスが成長基調にある。
- 一方, 国際的なMICE誘致競争が激化する中, 日本の地位は相対的に低下しており, 国は, 観光立国推進基本計画 (平成24年3月) で「今後5年以内に国際会議開催件数を5割以上伸ばし, アジア最大の開催国を目指す」との目標を掲げている。
- また, 国内各都市においては, 施設の拡張や新規開発の検討などが進められている。

■アジア・大洋州地域の主要国の国際会議開催件数増加率 ※ICCA統計  
出典: 観光庁資料より



■アジア・大洋州における都市別国際会議件数 (2012) ※ICCA統計

世界順位	アジア・大洋州順位	都市名	開催件数
6	1	シンガポール	150
13	2	北京	109
16	3	バンコク	105
14	4	ソウル	100
23	5	香港	96
24	6	シドニー	86
26	7	台北	80
31	8	クアラルンプール	69
31	8	東京	69
35	10	上海	64

出典: 観光庁HPより

## 2. 福岡市のMICEの現状

### 1) 福岡市のMICEの特徴

- 福岡市は, MICE誘致・開催において大きな強みを有しており, 国際会議の開催件数は, 平成21年から4年連続で国内第2位, また, MICE誘致のポテンシャルを評価され, 平成25年6月には, 観光庁から「グローバルMICE戦略都市」として選定を受けている。

#### <本市の強み>

- アジアに近接し, アジア主要都市との直行便が就航する地理的な優位性
- コンパクトな市街地の形成によるストレスのないMICE開催
- 多くの大学や研究機関など, 潜在的な会議誘致主体や参加者の集積

■国際会議の開催件数及び都市別順位 ※JNTO統計 (単位: 件)

区分	1位	2位	3位	4位	5位	6位
平成21年 (2009)	東京	福岡	横浜	京都	名古屋	大阪
件数	497	206(44)	179	164	124	94
平成22年 (2010)	東京	福岡	横浜	京都	名古屋	神戸
件数	492	216(47)	174	156	120	91
平成23年 (2011)	東京	福岡	横浜	京都	名古屋	神戸
件数	470	221(52)	169	137	112	83
平成24年 (2012)	東京	福岡	京都	横浜	大阪	名古屋
件数	500	252(62)	196	191	140	126

※福岡市の ( ) 内はアジア関連会議

### 2) 国際おもてなし都市としての受入環境の整備

#### ○アフターコンベンション・ユニークベニューの充実

※ユニークベニューとは, 歴史的建造物や公的空間等で, 会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場。

#### ○地域と連携したMICEおもてなし都市

・歓迎バナーなどによる歓迎演出, 市民ボランティアによる通訳など

#### ○ストレスフリーのコンパクトな都市環境

- ・FUKUOKA TOURIST CITY PASS (外国人対象の公共交通1日フリー乗車券) の発行
- ・福岡市無料公衆無線LAN (Fukuoka City Wi-Fi) の設置など



川端商店街における交流パーティー



舞鶴公園 (福岡城跡) におけるウェルカムパーティーでの観月会



専門誌でも評価されたMICE専門の語学ボランティア

### 3) 課題

#### ○コンベンションゾーンにおける機能不足

・コンベンション施設が集積しているものの, 宿泊や賑わい機能が不足し, 施設の一体性や連続性が確保されておらず, MICE誘致の国際競争力上の課題となっている。

#### ○高い稼働率による新規催事の受入困難

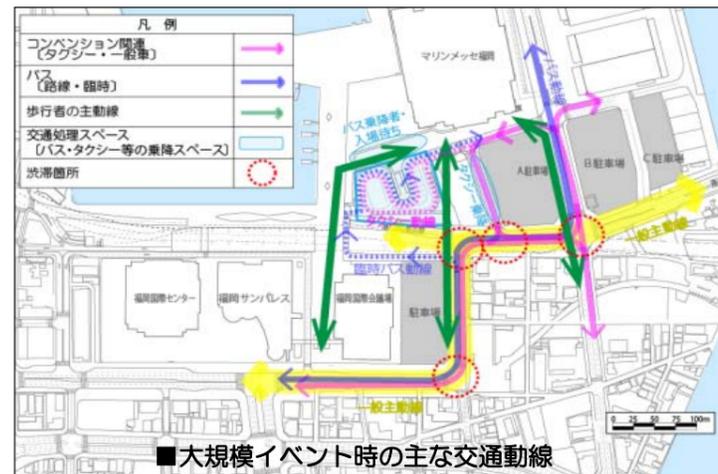
- ・マリンメッセ福岡や福岡国際センターの稼働率は, ほぼ上限の80%超であり, 利用者は国内リピーターが中心で, 新規催事の受入が困難となっている。
- ・年間50件程度利用をお断りせざるを得ない状況であり, 経済的な機会損失が発生。(約190億円)

#### ○日常的な賑わいの不足

- ・飲食店や地区の回遊性などが不足しており, MICE参加者にとって利便性が高くない。
- ・都心と近いにも関わらず, 市民にとって身近な場所となっていない。

#### ○交通アクセスや交通混雑の課題

- ・空港や博多駅などの交通結節拠点と近接しているが, 円滑で分かりやすい交通アクセスが確保されていない。
- ・コンベンションゾーン周辺においては, イベント時の交通混雑が著しい。



■大規模イベント時の主な交通動線

#### <現状の交通の主な課題>

- ・バス交通と一般車・タクシー交通の輻輳
- ・一般交通の交通混雑にイベント交通が加わることによる交通混雑の増大
- ・交差点における横断歩行者による右左折車両の通行阻害

など

# 福岡市MICE関連施設整備方針(骨子案)

## 3. MICE機能強化の方向性

### 福岡市のMICE戦略に即し、強みを活かしたMICE振興

#### 1) 展示会併設型の大規模会議の誘致

- 現在、福岡市で開催される国際会議等は中小規模のものが多く、展示会併設型が主流となっている大規模会議についても、さらなる誘致を図る。

#### 2) アジア関連の会議・学会、企業の報奨旅行等の誘致

- 医学やエネルギーなど様々な分野でアジア関連の会議が多く、豊富な実績と地理的な優位性を活かして、アジア関連の会議・学会やアジアの企業の報奨旅行等の誘致を図る。

#### 3) 産業特性を活かした展示会・見本市の創出・誘致

- 食や水素エネルギー、自動車関連など福岡・九州の産業特性を活かした展示会・見本市の創出または誘致を図り、需要増加に対応しながら、今後、大きく成長させていく。

#### ■MICE誘致の主な重点分野

- 医療・医学（最先端研究、実用化）
- クリエイティブ（デジタルコンテンツ、ゲーム）
- 食（グルメ、食品・素材）
- 新産業（モビリティ、エネルギー）

## MICE機能の強化

### ■MICE機能強化の方向性

- MICE関連施設が徒歩圏内に一体的・機能的に配置される「オール・イン・ワン」の実現。
- 第2期展示場の整備による開催余力の向上。
- MICE参加者の利便性向上や、市民にとって身近で魅力あるにぎわい空間の創出。
- 円滑なMICE開催の実現のため、交通アクセスや地区内の回遊性の向上。

### ■強化する機能

- 将来にわたって継続性のある、施設の連携が可能となるよう、既存施設の更新も踏まえて、具体的な施設整備や民間施設の誘致を図る。

#### 1) 展示機能(第2期展示場)

- 大規模会議等における展示会ニーズに対応する施設の規模・機能。
- マリノメッセ福岡や福岡国際会議場との連携の図りやすさを考慮。

#### 2) 宿泊機能(ホテル)

- VIP向けの質の高い部屋を備えた250~300室程度を有するホテル。
- MICE会場にふさわしいグレード感の高い会議室や一定の広さのある宴会場。

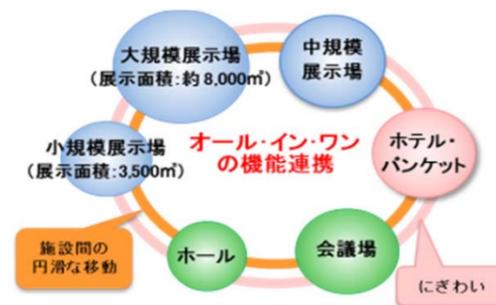
#### 3) 賑わい機能(飲食店・物販店舗、等)

- MICE参加者の利便性向上や、市民が日常的に訪れたいようなウォーターフロント地区にふさわしい飲食店や物販店舗等。
- 賑わいや交流を創出し、回遊の起点となる広場などの空間。

#### 4) 歩行者専用通路(歩行者デッキ等)

- MICE参加者が、雨に濡れずに施設間をスムーズに移動できる動線。
- 日常的に訪れる市民や来街者が、地区内や施設間を楽しく安全に回遊できる動線。

### ■「オール・イン・ワン」の概念図

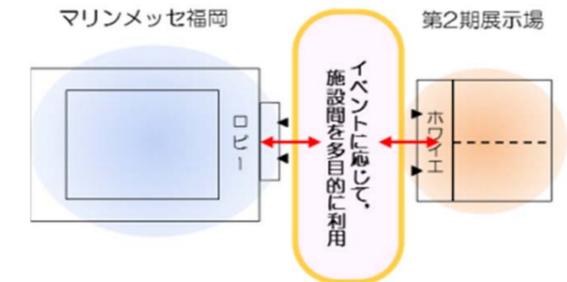


## 4. 機能配置の考え方

### 1) 展示機能(第2期展示場)

- マリノメッセ福岡との一体性や連続性の確保や、大規模会議などにおける福岡国際会議場との移動のしやすさを考慮するとともに、整形かつまとまった広さの敷地を確保するため、マリノメッセ福岡の南側の区域を計画地とする。

### ■施設間の利用イメージ



### 2) 宿泊・賑わい機能

- 宿泊機能は、国際会議等におけるVIP動線の確保や移動のしやすさを考慮し、福岡国際会議場に近接した位置とする。
- 海に面したロケーションを活かし、水際空間や博多ふ頭と一体となった賑わいの創出や地区の回遊性を考慮するとともに、MICE参加者や来街者の利便性、賑わいの連続性等を考慮し、地区内の回遊動線に接する位置とする。

### 3) 駐車場機能

- 利用者の移動のしやすさを確保するため、コンベンション施設に隣接又は近接する位置とする。
- アクセスのしやすさやイベント時の交通混雑の緩和を図るため、都市高速道路より南側用地を主として活用する。

### 4) 地区内の回遊動線

- 国内外から初めて訪れるMICE参加者や来街者にも分かりやすく、安全で快適な歩行者空間を確保する。
- 地区内の円滑な歩行者ネットワークの形成を図るとともに、地区の一体的な賑わい創出にも配慮した回遊動線を確保する。



※上記配置図は、「機能配置の考え方」に基づく配置イメージ

## 5. 施設計画

### 第2期展示場

#### 1) 基本的な考え方

##### ○既存施設との適切な機能分担

- ・ マリンメッセ福岡など既存展示施設が有する特性や強みを踏まえながら、適切な機能分担を図る。

##### ○展示を中心とした機能

- ・ 展示を中心とした機能性を重視した施設とし、様々な規模・用途の展示会等に対応するため、可動間仕切り等による分割可能な構造とする。



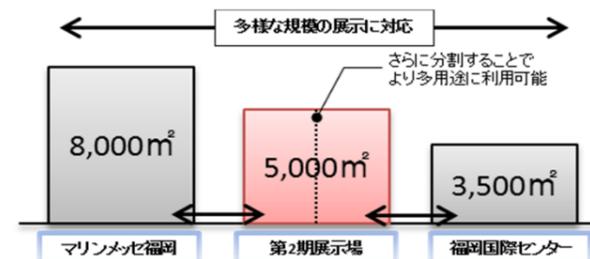
#### 2) 配置等計画

- ・ 来場者用の主要な出入口をマリンメッセ福岡側に設けることで、マリンメッセ福岡との一体性を確保する。
- ・ 大規模展示会開催時の来場者の滞留スペースを主要な出入口付近に配置する。
- ・ 展示室を建物の中心とし、必要な諸室を周辺に配置する。
- ・ 展示会の設営・撤去時により多くの関係車両が駐車できるよう、施設配置に配慮する。

#### 3) 施設規模

##### ○展示面積：約5,000㎡

- ・ 既存の展示施設とは異なった中規模の展示室とすることで、施設間での機能分担や連携を図る。
- ・ 小規模な展示会や大規模学会時の分科会利用などに対応するため、遮音性能のある可動間仕切りにて展示室を2分割できる構造とする。



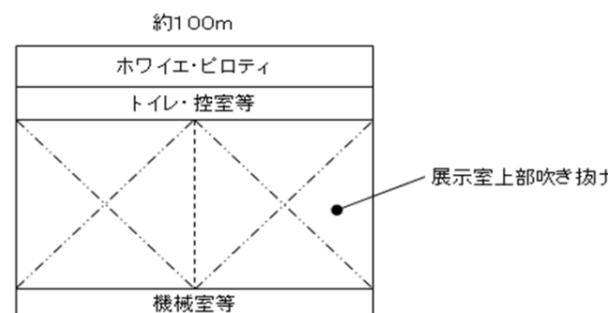
##### ○延床面積：約10,000㎡

- ・ 展示場有効率\*を約50%と設定し、延床面積を約10,000㎡とする。

※延床面積対する展示面積の割合



■1階平面イメージ

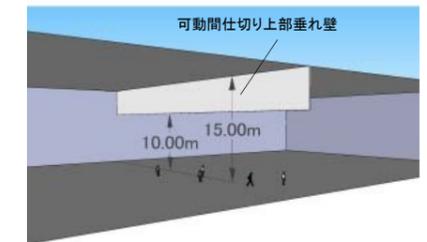


■2階平面イメージ

##### ○天井高：15m以上

- ・ 展示会などのほか、コンサート等にも対応するため、天井高は15m以上を確保する。

##### ■天井高15mのイメージ



#### 4) 基本性能

- ・ 展示室は、自由な展示レイアウトが可能な柱の無い空間とする。
- ・ 基本的に展示機能に特化した仕様とするが、コンサート等にも対応できるようにする。ただし、照明・音響・舞台等の装置については、必要最小限の設備とする。
- ・ 分割される各展示室について、主出入口を1か所、サブ出入口を1か所以上設ける。
- ・ 搬入用主要出入口付近に、一定のまとまった搬入用スペースを設ける。
- ・ 必要な諸室：主催者控室/事務室、会議室、倉庫、その他必要な諸室（パントリー等）。

### 駐車場

#### 1) 基本的な考え方

- ・ 現状では、マリンメッセ福岡に隣接してまとまった規模の駐車場（約930台）があり、様々なイベントに柔軟に対応できている一方で、駐車場への交通の集中により、著しい交通混雑が生じている。
- ・ そのため、第2期展示場の整備に伴い必要となる駐車台数については、これまでの利用実態のほか、周辺の交通環境への影響を考慮して、適切に配置する。

#### 2) 施設規模

- ・ 第2期展示場に必要となる駐車台数は、マリンメッセ福岡の南側駐車場の利用実績から約200台と設定する。
- ・ また、第2期展示場は、現駐車場用地に計画しているため、整備に伴い必要な代替の駐車台数約340台をあわせた約540台を、都市高速道路より南側を主に、マリンメッセ福岡や第2期展示場に近接した場所に配置する。
- ・ 当該エリアにおいて確保できる駐車場用地の規模や周辺交通への影響を考慮しながら、施設の立体化を検討する。

#### 3) 配置等計画

- ・ 周辺の交通環境への影響を考慮して、駐車場用地への出入口の位置や数を設定する。
- ・ 敷地内に十分な滞留スペースを確保する。
- ・ 平面駐車場やバス、タクシーの乗降スペースの確保についても、あわせて検討する。

#### 4) 基本性能

- ・ 整備コストの抑制や工期の短縮化を図るため、効率的で機能的な平面計画や構造形式とする。
- ・ 施設の1階部分は、大型のバスや搬出入車両などの利用を想定した計画とする。

# 福岡市MICE関連施設整備方針(骨子案)

## 6. 交通対策の考え方

### 1) 新たな道路基盤等の整備

- コンベンションゾーン周辺における東西、南北方向の幹線道路とのネットワークを強化し、交差点での交通負荷の軽減を図るため、都市計画道路築港石城町線の未整備区間の整備を行うとともに、周辺交差点の改良などを検討する。

### 2) 公共交通のアクセス性向上

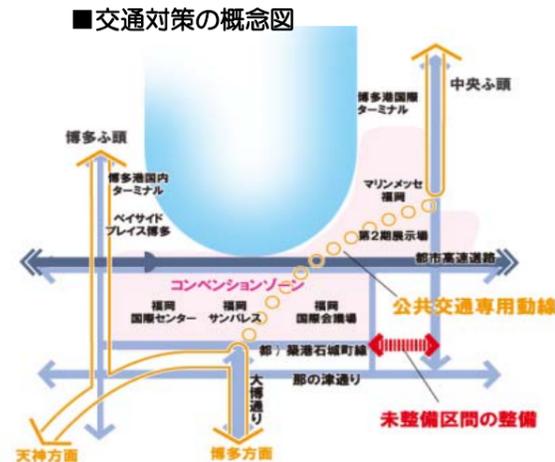
- 公共交通と一般交通を分離する公共交通専用動線について、コンベンションゾーン内への整備を検討するとともに、乗降場、待機スペースの適切な配置により、バス交通の定時性・速達性、利便性の向上を図る。

### 3) 自動車動線と歩行者動線の分離

- 自動車と歩行者の輻輳による交通混雑の緩和や回遊性の向上を図るため、分かりやすく安全な歩行者環境をつくる歩行者デッキ等の整備を検討する。

### 4) 交通マネジメント

- コンベンションゾーンへの交通集中を分散する道路案内表示や誘導表示などの設置を検討する。
- 公共交通の利用を促すソフト施策を検討する。



## 7. 整備手法の考え方

### 1) 基本的な考え方

- 施設整備による市の財政負担の軽減や平準化、維持管理コストの縮減を図るため、民間企業の技術ノウハウや資金を最大限活用した事業手法とする。
- 既存のコンベンション3施設は、一般財団法人福岡コンベンションセンターによる一体的な運営により、高い稼働率や安定的かつ公益性を重視した運営が可能となっている。
- 第2期展示場等の運営についても、同財団の関与を基本として、既存施設との一体的な運営を可能とする手法の検討を進める。

#### ○第2期展示場

- PFI(BTO)方式による事業化の方向性で進める。

#### ○駐車場

- 財政負担の軽減や平準化、交通への影響等を考慮しながら、施設規模・性能の設定や整備、維持管理・運営の手法について検討を進める。

#### ○ホテル・賑わい施設等

- 既存施設との連携を図りつつ、MICE機能のさらなる強化等により、地区の強みを活かした一体的な再整備が必要なことから、民間事業者の参画意欲をさらに高めるための検討が必要。
- 民間施設の誘致を検討する区域をコンベンションゾーン全体とし、民間事業者の参画意欲を把握しながら、事業区域や導入機能・規模等の整理を行い、引き続き、民間施設の誘致に向けて取り組む。

#### ○歩行者デッキ等

- 民間事業者によるホテル・賑わい施設等との一体整備の可能性を検討し、全体計画を踏まえた施設規模・性能設定や整備、維持管理・運営の手法について検討を進める。

## 8. 概算整備費

- 第2期展示場の概算整備費については、約45億円を見込んでいる。  
(なお、上記は平成26年1月時点の試算額であり、資材価格等の動向によって変動する可能性がある。)
- その他の施設整備費については、今後、施設の具体的な検討をさらに進めていく中で算出することとしており、民間施設との一体整備の可能性などを含め、整備費の低減を図るよう努めていく。

## 9. 施設整備による効果

### 1) 施設整備による効果

#### ①コンベンションゾーン内における施設の一体性・利便性の向上

- 第2期展示場の整備により、各コンベンション施設の近接性が高まるとともに、円滑な歩行者ネットワークの形成により、コンベンションゾーンの一体性・利便性が向上する。

#### ②展示面積の増加による利用可能日数の増加(高稼働率による機会損失の解消)

- 第2期展示場の開館によりゾーン内の施設利用可能日数が増加し、お断りによる経済機会の損失が解消されるとともに、開催余力が向上し、MICE参加者が増加する(約65万人増を推計)。

### 2) 経済波及効果(推計)

- 第2期展示場における展示会、会議等の開催需要及び過去に調査した来場者消費単価をもとに推計した、経済波及効果は約500億円。うち、来場者と主催者による直接効果は約200億円。

#### ■直接効果の内容

- 来場者・・・宿泊費、飲食費、市内交通費、土産・買物費、観光娯楽費等
- 主催者・・・会場費、交通費、管理運営費、機器レンタル費等

## 10. 事業スケジュール(目標)

- 第2期展示場の整備にあたっては、計画地が平面駐車場として利用されていることから、まずは、代替の駐車場を整備し供用開始したうえで、第2期展示場の整備に着手する。
- また、都市計画道路等の関連インフラについては、第2期展示場開館にあわせて供用開始するよう取り組む。
- ホテル、賑わい施設等については、コンベンションゾーンにおいて早期に「オール・イン・ワン」が実現できるよう、民間事業者の公募等に向けた取り組みを進めていく。

年度	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	平成32年度 (2020)
第2期展示場 開館	検討	MICE関連施設 整備方針	公募準備 選定手続き	事業者 決定	設計	工事	第2期 展示場 開館
インフラ 関連	検討	MICE関連施設 整備方針	検討 調査	設計	工事	工事	供用開始